● 授業科目の内容紹介

保育専攻

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
保育学演習		〔2〕	**保**	**1**	**加藤寿子**

Ⅰ　主題

この授業では、「子育て広場」の実践を通して、子育て支援や保育について考える。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援活動の実践により、支援についての理解を深める。
2.子どもや母親とかかわり、子どもや母親の思いを理解することができる。
3.保育者としての役割を考え、実際に支援する力を養う。

Ⅲ　授業の概要

地域の親子が参加する「子育て広場」の活動を企画・運営し、実践しながら保育についての考えを深め理解する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1～2.	子育て支援とは何か	子育て支援のあり方を考える
3.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場①)
4～5.	保育実践の検討と準備	保育環境を考える
6.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場②)
7～8.	保育実践の検討と準備	支援内容を検討する
9.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場③)
10～11.	保育実践の検討と準備	保護者の支援について考える
12.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場④)
13～14.	保育実践の検討と準備	保護者の支援について考える
15.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑤)
16～17.	保育実践の検討と準備	子どもとのかかわりを考える
18.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑥)
19～20.	保育実践の検討と準備	子どもとのかかわりを考える
21.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑦)
22～23.	保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
24.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑧)
25～26.	保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
27.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑨)
28～29.	保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
30.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑩)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

必要に応じて資料を配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(保育実践)
配点比率(%)　合計 100%		20		30	50
子育て支援活動の理解		○		○	○
子ども・子育て家庭の理解		○		○	○
保育者の役割の理解		○		○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

保育実践に必要となる準備を、各自責任を持って行うこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

特になし

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
幼児体育演習		〔2〕	**保**	**1**	**藤田庄治**

Ⅰ　主題

この授業では、幼児の運動遊びに携わる保育者が保育現場でプログラムを立案し、実践できるために必要な基本的な知識や技能を習得する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもの心身の発育発達と現況を踏まえた体育教育の在り方を考察する
2.保育としての体育プログラムを考案することができる
3.段階指導及び展開方法を学び、指導技術及び技能を身につける

Ⅲ　授業の概要

この授業は、幼児体育の現状と在り方について考えながら演習を中心に展開。総合指導としての体育教育を理解し、指導できる保育者を目指す。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1. 講義 1	オリエンテーション・幼児の体育教育の現状について
2. 講義 2	幼児の体育教育の在り方について
3. 演習 1	マットあそびの段階指導及び展開方法①/「どんぐり山で遊ぼう」
4. 演習 2	マットあそびの段階指導及び展開方法②/「桃太郎」
5. 演習 3	とび箱あそびの段階指導及び展開方法①/「お馬の親子」
6. 演習 4	ボールあそびの段階指導及び展開方法①/「ボールで遊ぼう」
7. 演習 5	なわあそびの段階指導及び展開方法①/「へび島冒険」
8. 演習 6	なわあそびの段階指導及び展開方法②/「なわで遊ぼう」
9. 実習 1	各種目の補助法・安全対策①/課題練習
10. 実習 2	各種目の補助法・安全対策②/課題練習
11. まとめ 1	実技課題の練習成果を発表する
12. 演習 7	自然と子ども①/ネイチャーゲーム
13. 演習 8	自然と子ども②/ネイチャーゲーム
14. まとめ 2	グループディスカッション「幼児の体育教育の在り方」
15. まとめ 3	これまでの内容を振り返る(レポート作成)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

幼児の運動あそび　　藤田庄治

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30	20	25	25	
幼児期における体育教育の重要性と意義	○	○		○	
段階指導法及び展開方法の理解	○	○		○	
演習における運動種目の習得			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

ジャンル別レパートリー表作成及び課題練習すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意　：　演習時においては、運動のできる服装(ジャージ・体育館シューズ)・筆記用具

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
発達心理学特論	**4**		**保**	**1**	**大村壮**

Ⅰ　主題

この授業では、発達理論や先行研究の知見を学び、発達を理解することが目的である。

Ⅱ　授業の到達目標

1.発達心理学研究を輪読し発達についての理解を深める。
2.レジュメを担当し、自分の理解を受講者たちと共有する。
3.さまざまな人に対する援助やケアのあり方を理解し、意見をもつ。

Ⅲ　授業の概要

教員を含めた文献輪読を通して、発達理論や先行研究の知見を学び、保育実習での体験と絡めて発達を理解する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1　イントロ、報告順の決定	報告者の決定、レジュメ作成方法の指示
2～ 7.　文献輪読と報告Ⅰ	レジュメの報告と討論
8.　問を整理する	文献に関する疑問を検討し整理する
9～14.　文献輪読と報告Ⅱ	レジュメの報告と討論
15　全体をまとめる	他の文献も含め、まとめる
16～18.　発達心理学研究を学ぶⅠ	幼児期の遊びに関する研究論文の輪読
19～21.　発達心理学研究を学ぶⅡ	幼児期の言語発達に関する研究論文の輪読
22～24.　発達心理学研究を学ぶⅢ	幼児期の人間関係に関する研究論文の輪読
25～27.　発達心理学研究を学ぶⅣ	子ども虐待に関する研究論文の輪読
28～30.　発達心理学研究を学ぶⅤ	発達障碍に関する研究論文の輪読

Ⅴ　使用テキスト・教材等

哲学する赤ちゃん	A.ゴプニック	亜紀書房	2010
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男	岩波書店	2009
心を発見する心の発達	板倉昭二	京都大学出版会	2007
発達の扉〔上・下〕	白石正久	かもがわ出版	1994・1996
乳幼児のこころ	遠藤利彦ほか	有斐閣	2011

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他()
配点比率(%)　合計 100%			40	60	
発達に対する理解と考察			○	○	
援助・ケアに対する考察			○	○	
発達に対する理解の共有			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

レポーター以外も自分の意見を言えるように、必ず文献を読んで授業に参加することを求めます。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

この授業は、年間を通して学生と教員が共同して作っていく授業です。学生の積極的な参加なくしては成り立ちません。集中して授業に参加することを期待します。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
特別支援教育論		**2**	**保**	**2**	**菅沼貴幸**

Ⅰ　主題

特別支援教育の理念や推進体制について概観し、幼稚園等における実践に当たっての必須事項を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.特別支援教育の仕組みを理解し、その意義について考察することができる。
2.子どもの特性に即した配慮や支援の在り方について実践的な知識を習得する。
3.「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成の必要性を理解し、事例をもとに作成することができる。

Ⅲ　授業の概要

特別支援教育は、幼・小・中・高校等のすべての教師によって推進され、障害のある子どもを含む保育・教育の質的向上を目指すものである。授業では、特別支援教育を支える理念や推進の仕組みなどについて基本的な理解を図るとともに、障害のある子どもの理解と指導・支援の在り方、個別の指導計画の作成の実際、保護者や関係機関との連携の在り方などの基礎的事項を学ぶ。講義を中心とするが、具体的事例を扱ったりグループ討議や演習などを取り入れたりする。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1. 特別支援教育の意義	特別支援教育への転換と基本的な考え方について
2. 特別支援教育の仕組み	我が国の特別支援教育の現行制度について
3. 国内外の動向	条約の批准やインクルーシブ教育システムについて
4. 現在の障害観	「ICF（国際生活機能分類）」と障害理解について
5. 園内外における支援体制	園内委員会やコーディネーター、巡回相談など推進の仕組み
6. 個別の指導計画	作成の意義と手順について
7. 気づきと支援の在り方	①落ち着きのない子や集団行動の苦手な子
8.	②こだわりが強い子やコミュニケーションがうまくとれない子
9. （具体的事例をもとに	③知的な発達に遅れがある子
10.　グループワーク）	④手足が不自由な子
11.	⑤視覚や聴覚、ことばに障害のある子
12. 保護者や関係機関との連携	個別の支援計画の意義と活用について
13. 就学支援	就学相談と小学校等との連携について
14. 交流教育	統合保育や交流活動について
15. まとめ（ディスカッション）	特別支援教育と保育（教育）の在り方について
定期試験	授業で扱った重要事項を中心に出題し、講義内容の理解度をみる。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。資料を配布したり、参考文献を提示したりする。

Ⅵ　参考書・参考資料

はじめての特別支援教育（改訂版）	柘植・渡部・二宮・納富	有斐閣	2014
特別支援学校　教育要領　学習指導要領	文部科学省	海文堂出版	
インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門	大塚　玲	萌文書林	

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	授業態度・参加貢献	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40	30		30	
特別支援教育の意義や仕組等の理解	○	○		○	
障害の理解と実践的知識の習得	○	○		○	
個別の指導計画等の作成		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・講義やグループワークの中で必要となる事項を調べたり、レポートを作成したりする。
・指示がなくても予習、下調べをして授業に臨むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・毎時間、授業の目標に対する振り返りを行い、小テストの他に小レポートに記入する。
・授業への貢献度を評価するので積極的な参加を期待する。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
社会福祉学特論	**2**		**保**	**1**	**加藤光良**

Ⅰ　主題

本科で学んだ社会福祉に関する知識を基に、児童福祉を中心に社会福祉の仕組みや動向を学び、これからの方向性と従事者の役割を考える。

Ⅱ　授業の到達目標

1.社会福祉の制度や仕組みを理解する。
2.戦後の社会福祉の歩みと動向を学ぶ。
3.これからの方向性と私たちの役割を考える。

Ⅲ　授業の概要

テーマごとに各自またはグループで検討・考察、発表を行い理解を深める。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1-2.	社会保障と社会福祉	28年度予算等から社会保障と社会福祉の関係等全体像を学ぶ。
3-5.	社会福祉の仕組み	公的扶助、社会保険、社会福祉の内容と仕組みを学ぶ。
6-8.	社会福祉の歴史	福祉六法の時代から基礎構造改革を経て、現在までの動向を理解する。 措置制度から利用契約制度への転換。
9-11.	子ども子育て支援新制度の展開	新たな子供子育て支援制度の背景と課題を考える。
12-14.	これからの方向性	社会福祉制度のこれからと私たちの役割を考える。
15.	まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない

Ⅵ　参考書・参考資料

本科の社会福祉の教科書等

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40	20	20	20	
社会福祉の仕組みや動向の理解	○	○	○	○	
授業への意欲、積極性		○	○	○	
情報、資料等の収集、分析、考察力		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

課題について各自で資料収集・分析をしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

日頃から社会福祉に関係するニュース等を収集しておくこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
家族支援演習		〔1〕	**保**	**2**	**土屋廣人**

Ⅰ　主題
家族支援の必要性を理解し、実践力を身に付ける

Ⅱ　授業の到達目標
1.社会福祉制度・関係機関の役割を理解し、支援力を高める。
2.家族を支援する際の面接スキルを理解し、身に付ける。
3.さらに、家族のニーズに応じた支援力・応用力を身につける。

Ⅲ　授業の概要
演習を中心として、授業項目ごとに検討・発表を行い、知識・技術を学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 家族支援とは、面接スキルの前に	福祉・教育・医療・司法・産業における支援制度
2. 家族支援制度	歴史的経過、家族形態の変化、街の家族支援制度
3. 保育所の社会的責任	保育と家族支援、児童福祉関係機関とその連携
4. 家族理解	ジェノグラム
5. 家族支援の必要性、相談とは	親子関係、 困難・喪失的体験時の心の動き
6. 事例検討の方法	インシデント法 1
7. 事例検討の方法	インシデント法2
8. 事例検討の方法	アセスメント表による検討1
9. 事例検討の方法	アセスメント表による検討2
10. 支援者としての自己理解	自らの対人関係を振り返る
11. 面接スキル（雰囲気づくり）	イエスセット
12. 面接スキル（明確化）	明確化　焦点化、感想　支持
13. 面接スキル（援助の3段階）	リフレーム、解釈、ねぎらい、
14. 保育者の具体的援助活動	障がい児支援
15. まとめ	これまでの授業のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
テキストは使用しない。必要によりプリントを提示する。

Ⅵ　参考書・参考資料
児童家庭福祉・児童心理関係の教科書を参考とする。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		60	20	20	
家族支援制度の必要性と施策の理解		○	○	○	
面接スキルの修得		○	○	○	
個別支援の理解と対応力		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
家族支援制度や関係機関の役割等の基本的なことを復習しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
主体的な授業参加態度が求められる。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
子育て支援論		**2**	**保**	**1**	**鈴木久美子**

Ⅰ　主題

多様化する子育て支援活動の現状を理解し、様々な課題を抱える少子化時代の子育て支援について考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援活動の現状を整理し、それを説明できる。
2.さまざまな角度から子どもや家庭について理解し、考察できる。
3.子育て支援活動に従事する保育者としてのありかたを明確にとらえることができる。

Ⅲ　授業の概要

子育て支援の現状と課題について、整理、検討、意見交換を経て、保育者＝子育て支援者の立場からの「子育て支援論」について考察する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	子育て支援とはなにか	子育て支援は何のためか
2.	現代社会における子どもと家庭	子どもと家庭を取り巻く環境の変化を整理する
3.	子育て支援の理念	子育て支援の理念と研究動向
4.	育て支援の歴史文化的諸相	伝統の子育てと家族の近代化
5.	稚園における子育て支援	具体的な取り組みを知る
6.	稚園による地域の子育て支援	具体的な取り組みを知る
7.	保育所における子育て支援	具体的な取り組みを知る
8.	子育てセンターの活動と課題	具体的な取り組みを知る
9.	域子育て支援活動	具体的な取り組むを知る
10.	子育て支援の効果	子育て意識とその効果を考える
11.	父親の子育て支援活動	父親を取り巻く環境と父親を支える支援を考える
12.	子育て支援活動の展望と課題	現代の子育て支援について総合的に考える
13～14.	子育て支援の環境・関係	支援者の立場から支援行動を考える
15.	改めて子育て支援とはなにか	これまでの学びと子育て広場の実践から総合的に考える
試験		レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等

子育て支援の理論と実践　　子育て支援プロジェクト研究会　　ミネルヴァ書房　　2013

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100%	50		50		
子育て支援活動の現状の理解	○		○		
子ども・子育て家庭への理解	○		○		
保育者の役割の理解	○		○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

輪読を実施するので、担当章についてレジュメを作成すること。その他の者も、事前にテキスト該当部分を読み込んでおくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

特になし

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
子育て支援演習Ⅰ		〔1〕	**保**	**1**	**太田嶋俊彦**

Ⅰ 主題

子育て環境の変化を知り、子育て支援の現代的意義・使命・役割を理解する。子ども子育て支援新制度についての理解を深め、現場体験を通して子育て支援の実践力を習得するとともに、地域のニーズに合った質の高い子育て支援のあり方について考えていく。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援の歴史的背景、使命、役割、必要性について理解する
2.保育現場における子育て支援活動を体験し、実践力、スキルを習得する
3.子ども・子育て支援新制度の理解と新たな課題、専門性について研究する

Ⅲ 授業の概要

子育て支援の意義,使命,役割,具体例等について講義。
子ども・子育て新制度の内容について講義。
保育所現場での実践体験。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 子育て支援の歴史的背景、意義	意義、役割、使命、具体的取組内容①(講義)
2. 子育て支援への取り組みの実際Ⅰ	具体的取組内容②(講義)
3. 保育所での実践体験①	計画立案、準備、参加等の現場実践
4. 保育所での実践体験②	〃
5. 保育所での実践体験③	〃
6. 保育所での実践体験④	〃
7. 保育所での実践体験⑤	〃
8. 保育所での実践体験⑥	〃
9. 保育所での実践体験⑦	〃
10.保育所での実践体験⑧	〃
11.子育て支援への取り組みの実際Ⅱ	具体的取組内容③(講義)
12.子ども子育て新制度の内容	子ども・子育て支援新制度の理解(講義)
13.保育士に求められる役割と資質	保育士の役割、資質、専門性　レポート作成(講義)
14 .課題と展望	子育て支援の問題点と課題整理、今後の展望(講義)
15. まとめ	講義と討議

Ⅴ 使用テキスト・教材等

保育所保育指針
講師がプリントを用意

Ⅵ 参考書・参考資料

講師がプリントを用意

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小レポート	成果発表・作品	授業態度	実習
配点比率(%)　合計 100	50	20		10	20
講義内容の理解	○				
事例研究		○			
実践力、観察力					○
出席日数　遅刻等				○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

実践体験について反省、評価、感想をレポートにまとめ次回に提出

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回、保育所保育指針を持参

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
子育て支援演習Ⅱ		〔1〕	**保**	**2**	**鈴木久美子**

Ⅰ　主題

地域における多様な子育て支援活動に積極的に参加し、現代社会における子育て支援について発展的に考察することで、実践力を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援の必要性を学び、子育て支援への理解を一層深めることができる。
2.子育て支援の多様性を学び、いま、求められている支援のあり方について考察できる。
3.自らが子育て支援を企画・運営することで、実践力を身につけることができる。

Ⅲ　授業の概要

これまでの学びを整理したうえで、実践的な子育て支援活動に積極的に参加し、多様な人々と出会い関わり、各人の考察をもとに理解を深め、実践力を身につける。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	子育て支援とはなにか	子育て支援の多様性を理解する
2.	地域の子育て支援	どのような場や機関があるかを調べる
3～4.	多様な子育て支援(1)	行政による子育て支援の内容を調べる
5～6.	多様な子育て支援(2)	行政以外の子育て支援の内容を調べる
7.	保護者の子育てネットワーク	保護者たちの子育てネットワーク活動を調べる
8～13.	子育て支援活動の企画・運営	子育て支援活動を企画・運営する
14～15.	自由討議	子育て支援をめぐる問題の整理とディベートの実施
	定期試験	レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	10	20	20	
子育て支援についての整理と理解	○	○	○		
支援のあり方についての考察	○	○	○		
子育て支援活動への参加とその姿勢			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

子育て支援の企画を作成、終了後は活動参加記録を作成すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

主体的な参加ができない場合は、出席を認めないこともある。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
子育て支援演習Ⅲ		〔1〕	**保**	**2**	**遠藤知里**

Ⅰ　主題

子育て支援演習Ⅰ、Ⅱでの学習を踏まえて、子育て支援の場づくりに必要とされる援助技法およびマネジメント方法を実践的に学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援事業の企画から評価までの方法を理解する。
2.人が集まる「場」づくりに必要なマネジメント力を身につける。
3.人が集まる「場」づくりに必要なファシリテーション力を身につける

Ⅲ　授業の概要

「仲間を巻き込む」「人と人とをつなぐ」ことを、事業の企画・運営・評価の実践を通して学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.「場」を創るとは？	思いを形にすること
2.企画の基本	人・時・金・コンセプト　5W1H
3.マネジメントの実際	広報　参加者募集
4.マネジメントの実際	リスクマネジメント　保険
5.マネジメントの実際	「資源」を活かす　資金調達
6.ファシリテーション・トレーニング	お互いを尊重する環境
7.ファシリテーション・トレーニング	グループの発達段階
8.ファシリテーション・トレーニング	ふりかえり
9.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
10.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
11.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
12.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
13.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
14.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
15.評価　まとめ	全体のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

教科書は使用しない。

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて資料を配付。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	計画書・報告書（小レポート）	企画運営の実践（成果発表）	授業態度	その他（貢献度）
配点比率(%)　合計 100		30	40	20	10
事業の方法理解（企画と評価）		○		○	○
マネジメント力を身につける			○	○	○
ファシリテーション力を身につける			○	○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

日頃から多様な子育て支援の場に関心を持ち、情報収集を行う。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

長期休業中または週末等にまとめて実施することがあるので、その際は各人の予定の調整を求めます。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
幼児音楽		〔2〕	**保**	**1**	**宮下友美恵**

Ⅰ　主題

幼児にとって音や音楽との出会いはとても大切なものであり、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わうことは、幼児の豊かな感性を育むことにつながる。そこで、この授業では、幼児の発達に応じた音楽の指導方法について学ぶ

Ⅱ　授業の到達目標

1.幼児の音楽教材について学び、発達に応じた教材を選ぶことができるようになる
2.幼児に対する音楽の指導法を理解し、適切な指導ができるようになる
3.さらに、伴奏の工夫や、編曲、遊び歌の創作ができるようになる

Ⅲ　授業の概要

幼児の歌や楽器遊びの教材について学び、年齢に応じた教材を選択する力を養ったり、具体的な奏法や指導法について学ぶ。グループで器楽合奏の編曲を行い、実際に演奏したり、オペレッタを演じたりする。幼稚園でのオペレッタの指導や器楽指導を参観し、学びを深める。また幼児に適した遊び歌を創作し、発表しあう。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1 オリエンテーション	授業の内容と進め方について
2.～5. 歌の指導	歌唱教材と指導法についての理解
6.～7. 伴奏法	幼児の歌唱における効果的な伴奏の理解
8.～9. 遊び歌の指導	遊び歌の教材と指導法についての理解
10.～13.遊び歌の創作	遊び歌を作詞・作曲し、発表しあう
14.～15.楽器奏法	楽器の奏法についての理解
16.～21.器楽合奏の指導	器楽合奏の指導と編曲についての理解
22.～27.オペレッタの指導	オペレッタ教材と指導についての理解
28.～29.音遊び	音遊びの指導
30 まとめ	これまでの内容のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

子どもの歌　　常葉学園短期大学幼児音楽研究会　編
続『こどものうた 200』　小林美実編　　チャイルド本社

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(実技)
配点比率(%)　合計 100		10	30	30	30
歌唱教材の理解と指導				○	○
遊び歌の指導と創作			○	○	○
器楽合奏の指導と編曲		○	○	○	○
オペレッタ教材の理解と指導		○	○	○	○
音遊びに対する理解と指導			○	○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

歌唱やピアノ伴奏の予習
授業で学習した内容についての復習

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
図画工作演習		〔2〕	**保**	**2**	**堀則雄**

Ⅰ　主題
この授業では、保育者として必要な「子どもの造形表現活動の基礎的・基本的な知識や技能」を、演習を通して習得する。

Ⅱ　授業の到達目標
1.子どもの発達特性を捉えた造形演習を通し、保育者として必要な総合的な表現活動の知識・技能を習得することができる。
2.子どもの表現と素材との関わり等を学び、表現意欲を高める素材や活動について理解を深める。
3.子どもの造形活動や作品に込められた子どもの思いや願いを、子どもの視点で理解し、受け止めることができる。

Ⅲ　授業の概要
演習を通して、保育者として必要な幼児造形表現活動の知識・技能について学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	前期オリエンテーション	前期授業の内容説明
2～4.	造形表現の演習1	子どもの興味・関心と表現活動
5～7.	造形表現の演習2	身近にある素材と造形遊び
8～10.	造形表現の演習3	幼児の造形制作過程の理解
11～12.	造形遊びの演習1	素材を生かした遊びと工夫①
13～14.	造形遊びの演習2	素材を生かした遊びと工夫②
15.	造形遊びの演習3	素材を生かした遊びと工夫③
16.	後期オリエンテーション	後期授業の内容説明
17～20	自然素材を生かした造形活動	フィールドワーク
21～22.	身近にある素材と造形活動1	素材を生かした造形遊び
23～24.	身近にある素材と造形活動2	素材を生かした造形制作
25～26.	身近にある自然と造形活動1	自然素材を生かした造形遊び
27～29.	身近にある自然と造形活動2	自然素材を生かした造形制作
30.	作品発表と授業のまとめ	作品鑑賞と授業のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
テキストは使用しない。(必要な資料は配布する。)

Ⅵ　参考書・参考資料
幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		30	30	40	
総合的造形表現の知識や技能の習得		○	○	○	
表現意欲を高める素材や活動の理解		○	○	○	
子どもの造形活動の理解を深める		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
各授業のまとめをし、レポート提出に備えておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
指示された表現用具・材料は各自で準備する。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
児童文化		**2**	**保**	**2**	**大坪弘典**

Ⅰ　主題

子どもは生活の中で、自立した人間としての基礎と深く関連がある文化を獲得していく。言い換えれば、子どものための児童文化財及び文化活動は、子どもが育つうえで重要な役割を担っている。ただし、大人から与えるだけでなく、子どもが主体となって創り出す文化もある。そこで、幼児教育者として、多様な児童文化という観点から、子どもの豊かな生活づくりのために必要な理論と実践力を身につけることを目的とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもを取り巻く文化と子どもとの関係について理解する。
2.多様な児童文化について学び、実践力を養う。
3.幼稚園教諭一種取得者として、幼児教育と小学校低学年教育とのつながりを理解する。

Ⅲ　授業の概要

乳幼児期の発達の段階を理論的に考察し、子どもをめぐる社会の変化と遊びの変遷等を自らの体験も含めて整理する。その上で、絵本、児童文学、伝承遊び等の文化活動の進め方や指導の在り方を学び、理解を深める。なお、実習など実地体験に積極的に取り組むことで、より深い理論の形成や実践力の習得を目指す。併せて、幼保小の連携が重視されている昨今、幼児教育と小学校低学年教育のつながりについても教授する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1	なぜ児童文化を学ぶのか	幼児教育者としての児童文化のとらえ方を学ぶ
2～ 4	乳幼児期の発達	教科書購読を通して、その外観を理解する
5～ 6	現代の子供の把握	調べ学習を経て、討議する
7～ 8	遊びの変遷	調べ学習を経て、討議する
9～11	保育現場における文化	幼稚園での実習、調べ学習を経て、討議する
12～15	子どもと絵本・児童文学の世界	図書館利用及び自己体験をもとに、作品について考察を深め、討議する。
16～17	子どもと科学の世界	科学館を見学し、体験学習を経て、考察する。
18～20	小学校生活科のねらいを経て、考察する	生活科のねらいと目的を理解したうえで、生活科の授業参観
21～22	児童文化の継承	伝承遊びやわらべ歌、地域の祭りについて知る。
23～25	絵本の読み聞かせ会を実施する	市立図書館、大学の子育て支援の場で、絵本の読み聞かせ
26～29	児童文化財の作成と実践	児童文化に対する学びを生かした保育教材をつくり、幼稚園で実践する
30	子どもにとっての文化とは	これまでの学びを通して、児童文化の役割を考察する

Ⅴ　使用テキスト・教材等

児童文化	小川清実	萌文書林
幼児期から児童期への教育	国立教育政策研究所	ひかりのくに

Ⅵ　参考書・参考資料

幼保連携型子ども園　教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		20	60	20	
子どもの成長と文化との関係性についての理解		○	○	○	
児童文化についての理解と文化活動の実践		○	○	○	
幼保小の連携についての理解		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

絵本、児童文学を広く読んでおくこと
新聞やインターネット等で、子どもの生活と文化の状況把握に努めること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

短期大学部付属幼稚園をはじめ、市立小学校、市立図書館等での校外活動を重視する。必ず参加すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
音楽理論		**2**	**保**	**1**	**藤掛絢子**

Ⅰ 主題

わらべうたや子どもの歌を歌ったり、聴き比べたり、動いたりしながら音楽のしくみやきまりを学ぶ。また、実際に楽譜を読み解き、コードを用いて伴奏をつける方法について学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標

1.歌ったり、聴いたり、体を動かしたりして、音楽のしくみやきまりを感じ取り、理解する。
2.楽譜を読み、歌ったり、演奏したりするために必要な音楽の知識を身につける。
3.コードを用いて伴奏をつける力を習得する。

Ⅲ 授業の概要

幼稚園や保育所等では、季節、年齢、子どもたちの実態や興味関心に合わせて、幅広い歌の中からふさわしいものを選んで弾いたり、アレンジしたりすることによって、子どもに寄り添った豊かな音楽活動が展開できる。この授業では、わらべうたや子どもの歌を歌ったり、聴き比べたり、動いたりしながら、音楽のしくみやきまりについて、感覚を通して学ぶ。そして学んだ知識を活かし、実際に楽譜を読み解き、自分なりに伴奏を工夫する力を身につける。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、機器の取り扱いについて、知識の確認
2	五線、音符と休符①	五線、音符や休符など、楽譜を読むための基礎的な知識を学ぶ
3	五線、音符と休符②	歌いながら、楽譜を読むための知識を学ぶ
4	リズムと拍子①	わらべうた遊びをしながら、リズムや拍子を学ぶ
5	リズムと拍子②	リズム遊びをしながら、リズムや拍子を学ぶ
6	リズムと拍子③	歌を聴いたり、リズム遊びをしたりして、拍子を感じ取る
7	音階と調①	調と音階のしくみを学ぶ
8	音階と調②	調の異なる歌を歌ったり、弾いたりして調と音階のしくみを学ぶ
9	音階と調③	様々な調でできた歌を聴きながら、調による雰囲気の違いを学ぶ
10	コードと伴奏①	コードの学習
11	コードと伴奏②	コードネームを見て弾く
12	コードと伴奏③	コードを用いて、伴奏をつける
13	コードと伴奏④	コードを用いて、伴奏を工夫する
14	弾きあい、知識の確認	伴奏づけをした子どもの歌をお互いに弾きあい、工夫したところを伝え合う
15	まとめ	これまでの学習の復習
	定期試験	筆記試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等

『ミッキーといっしょーはじめての楽典ブックー』 長沼由美 他 ヤマハミュージックメディア
『ミッキーといっしょーはじめての楽典ワークブックー』 長沼由美 他 ヤマハミュージックメディア
『おんがくのしくみー歌って動いてつくってわかる音楽理論』 長沼由美 他 教育芸術社 2015

Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて、授業内にプリントを配布する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100	50	20		30	
音楽の基礎的な理論に関する理解	○	○		○	
記譜、読譜力の習得	○	○		○	
コードを用いた伴奏づけの理解と実践	○	○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業外の学習として演習課題を課すことがある。
その都度、学んだことを復習して、次の授業に臨むこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

『ミッキーといっしょーはじめての楽典ブックー』と『ミッキーといっしょーはじめての楽典ワークブックー』は本科時に使用したものを使うので、新規購入の必要はない。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
絵画		〔1〕	**保**	**1**	**小倉　隆**

Ⅰ　主題

この授業では、演習を通して描画と絵画表現に親しみ、描画と絵画の基礎的な知識と理解を深める。

Ⅱ　授業の到達目標

1.絵画を描画と鑑賞の観点で、考察できるようになる。
2.描画の方法を確かめ、さまざまな描画材料・方法で描画表現を試みることができるようになる。
3.描画と表現を振り返り、鑑賞と考察を行うことができるようになる。

Ⅲ　授業の概要

子どもの描画に携わる者として、演習を通して基礎的な描画と絵画の理解を確かめるとともに、描画と絵画表現に親しみ、自分なりの描画の探求を試みる。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　オリエンテーション	みることと描画・絵画;自分の関わりを見つめる
2.　描画を確かめる 1	みることと描画;身近な材料で描く;パス
3.　描画を確かめる 2	みることと描画;身近な材料で描く;パス
4.　友だちを描く 1	描画材料;パス・色鉛筆 1
5.　友だちを描く 2	描画材料;パス・色鉛筆 2
6.　友だちを描く 3	描画材料;パス・色鉛筆 3
7.　いろいろな表し方 1	コラージュ・小さな紙ほかに描く 1
8.　いろいろな表し方 2	コラージュ・小さな紙ほかに描く 2
9.　探求して描く 1	描きたいものを描く 1
10. 探求して描く 2	描きたいものを描く 2
11. 探求して描く 3	描きたいものを描く 3
12. 探求して描く 4	描きたいものを描く 4
13. 探求して描く 5	描きたいものを描く 5
14. 制作物の紹介・鑑賞	制作物の紹介と振り返り・鑑賞する
15. 授業のまとめ	授業のまとめと振り返り

Ⅴ　使用テキスト・教材等

必要な用具は各自で持参する。

Ⅵ　参考書・参考資料

必要な資料は配布する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(　)
配点比率(%)　合計 100%		30	30	40	
描画と鑑賞の理解		○	○	○	
多様な描画の実践、発表		○	○	○	
自分なりの表現探求と実践		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で使う材料・持物の事前準備。
レポートの提出に備え、各授業の内容を確実にまとめておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業に必要な用具と材料は、各自で持参する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
教育学特論		**2**	**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題
教育の本質について議論と考察を深める。

Ⅱ　授業の到達目標
1.テキストの概要をまとめたうえて批判的検討ができるようになる。
2.議論を通して、他者と自己の保育の考え方や方法の違いを考察できる。
3.多様な視点から現代の子どもを理解し、子どもを捉える視野を広げる。

Ⅲ　授業の概要
共通テキスト及び配布資料を読み、グループで内容を確認し、検討、議論をしていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1.　幼児教育の現代的テーマ	幼児教育の現代的テーマを議論する
2.　現代社会における子ども観	文献検討
3.　「大人になる」とはどういうことか	文献検討
4.　子どもの貧困問題	文献検討
5.　集団の中の子ども	文献検討
6.　幼児教育と学力	文献検討
7.　近代的子ども観	文献検討
8.　児童文学からよみとく教育思想	文献検討
9.　子どもの多元的解放	文献検討
10. 子ども文化(1)	文献検討
11. 子ども文化(2)	文献検討
12. 保育実践を読む	実践記録の検討
13. 保育実践を読む	実践記録の検討
14. 幼児教育の現代的テーマ	1ででたテーマを改めて議論する
15. まとめ	まとめの議論

Ⅴ　使用テキスト・教材等
『入門・子ども社会学ー子どもと社会・子どもと文化』　南本長穂・山田浩之　ミネルヴァ書房　2015

Ⅵ　参考書・参考資料
授業中に配布

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)合計100					
テキストの内容の理解と考察			○	○	
保育実践の理解と考察			○	○	
現代の子どもの理解と考察		○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストをよく読み、問いをもって参加すること

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
報告は責任をもって行うこと。参加者は場への貢献の責任を果たすこと

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
保育学特論	**4**		**保**	**1**	**前浦律子**

Ⅰ　主題

この授業では、園での子どもの遊びをどう理解するか、どう保育を構想するかについて明らかにし、遊びについての理解を深め、専門性を高めることを目的とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.文献購読を通して、遊びの本質について理解を深め、専門性を高める。
2.子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる。
3.記録について分析、考察し、保育の質を高める。

Ⅲ　授業の概要

文献購読を通して子どもの遊びについて理解を深め、さらに、実際に保育の場で子どもの遊びを観察、記録し、分析、考察をする。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	オリエンテーション	授業内容の概略と計画
2～15.	文献購読 ・遊びを中心とした保育とは ・子どもの遊びを理解する ・子どもの遊びを援助する ・保育に生きる記録とは ・保育記録のなかの計画性 ・育ち合う子どもと保育者 ・行事のとらえ方と指導 ・子どもと保育者が織りなす生活 ・遊びの意義、再確認 ・総合的な学びを保障する ・保育者の役割	文献を分担して読み進め、「子どもの遊びをどう理解するか」、「どう保育を構想するか」について、明らかにしていく。
16.	観察法について	子どもを「見る」こととは
17～29.	エピソードをもとに討論	各自の記録を発表し、考察し合う
30.	まとめ	まとめのレポート作成

Ⅴ　使用テキスト・教材等

河邉貴子『遊びを中心とした保育』(萌文書林)

Ⅵ　参考書・参考資料

幼稚園教育要領解説
保育所保育指針解説書
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		80		20	
子どもの遊びについての理解する		○		○	
子どもの遊びを観察し記録する		○		○	
記録を分析、考察する		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

提示された文献を事前に学習し、発表の準備をする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業には、自分の考えを持って意欲的に参加する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
教育心理学特論		**2**	**保**	**1**	**土屋廣人**

Ⅰ　主題
主に乳幼児期の発達について教育心理学の視点、特に発達と学習・発達課題について学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標
1.発達過程及び変化の指標について理解し、発達的見方を身につける。
2.変化の指標に沿った行動について理解し、保育に活用できるようにする。
3.さらに、乳幼児期の発達が児童期以降に与える影響について理解し、支援力を高める。

Ⅲ　授業の概要
乳幼児の発達と教育に関する文献を自らまとめ、意見交換する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 発達と教育	発達と教育の関係を学ぶ
2. 乳幼児期の発達と教育1	0 歳児の教育について学ぶ
3. 乳幼児期の発達と教育2	1 歳児の教育について学ぶ
4. 乳幼児期の発達と教育3	2 歳児の教育について学ぶ
5. 乳幼児期の発達と教育4	3 歳児の教育について学ぶ
6. 乳幼児期の発達と教育5	4 歳児の教育について学ぶ
7. 乳幼児期の発達と教育6	5 歳児の教育について学ぶ
8. 発達課題と教育1	発達課題と虐待の影響について学ぶ
9. 発達課題と教育2	社会適応と発達課題の関係について学ぶ
10. 発達課題と教育3	不適応児童への対応について学ぶ
11. 発達課題と教育4	不適応児童への対応について学ぶ
12. 障碍児の発達と教育1	障碍児の発達について学ぶ
13. 障碍児の発達と教育2	治療理論について学ぶ
14. 障碍児の発達と教育3	保護者支援について学ぶ
15. まとめ	これまでの授業をまとめる

Ⅴ　使用テキスト・教材等
やさしい教育心理学第4版　　鎌原雅彦・竹綱誠一郎　　有斐閣

Ⅵ　参考書・参考資料
発達の扉（上）　　白石正久著　　かもがわ出版
不思議現象 ： 子どもの心と教育　　菊池聡，木下孝司編著　　北大路書房

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
発達的見方を身につける		○	○	○	
子どもの行動の理解と応用		○	○	○	
発達支援の重要性の理解		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
提示された文献等を事前に学習し、発表の準備をする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
主体的な授業参加態度が求められる。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
学校教育社会学特論		**2**	**保**	**2**	**前浦律子**

Ⅰ　主題

この授業では、幼児教育の歴史や現状を捉え、社会の変化に伴って発生する今日的課題（政策）について分析、検討し、保育者としての専門性を高めることを目的とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.幼稚園教育の歴史的変遷を通して、保育内容を理解することができる。
2.幼稚園教育要領の変遷を通して、日本の幼児教育思想を理解することができる。
3.幼児教育の現状を捉え、今日的課題を吟味することができる。

Ⅲ　授業の概要

幼稚園教育の歴史的変遷を捉えるとともに、社会の変化に伴って発生する今日的課題を追究する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	オリエンテーション	授業内容の概略と計画
2.	戦前・戦後の幼稚園教育	戦前、戦後の幼稚園の位置
3.	幼稚園教育におけるカリキュラムの変遷	カリキュラムの変遷と特徴について
4.	幼稚園教育要領の変遷（1）	教育内容と方法論の観点から
5.	幼稚園教育要領の変遷（2）	幼児教育思想の観点から
6.	幼稚園教育の現状と課題	第3の教育改革について
7～9	子ども子育て支援新制度について	幼保一元化・一体化について 認定こども園（幼保連携型認定こども園）の理念 教育課程の編成
10～12.	幼・保・こども園・小の接続・連携について	連携の意義 連携の内容 （アプローチカリキュラムからスタートカリキュラム） 連携の方法
13.	地域社会との連携	幼稚園の役割拡大について
14.	特別支援教育	根拠あるアセスメントについて
15.	教員の免許更新制度	免許更新の意義と背景について

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料は、必要に応じて配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

日本の幼児教育思想と倉橋惣三	諏訪義英	新読書社
幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷	民秋　言	萌文書林
学びと発達の連続性	社団法人全国幼児教育研究協会編	チャイルド本社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		80		20	
幼児園教育の歴史的変遷の理解		○		○	
幼児教育の思想の理解		○		○	
今日的課題（政策）についての理解		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・個人の問題意識をもって講義に参加する。
・参考文献は、自主的に読んでおく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

レポートをもとに授業を進めるので、担当者は、その担当箇所について資料を作成し、責任を持つ。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（人間関係）		**2**	**保**	**2**	**岡村由紀子**

Ⅰ　主題

［人は、人の中で生きる動物であると言われるように人間関係は、子どもが育つ上で重要である。そこで、人間とは何か？人間関係は、人間にとってどういう意味を持つのか？と根本的な問いかけをし、深く人間関係を掴み、乳幼児期の人間関係論を深め、高い専門性が身につくことを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.乳幼児からの人と関わる力』の発達を理解し、人間関係を深める。
2.「気になる」子、虐待など様々な現代の子どもの問題を人間関係の視点でを学び、考察する。
3.さらに、現代の保育・子育てにあるニーズの理解、問題の整理、保育実践力を身につける。

Ⅲ　授業の概要

毎回テーマにふさわしい授業プリントを用意し事前に配布し、授業前に学習テーマを理解して参加する。当日は、事前学習を前提に、テーマに沿って、参加者が意見を述べ、テーマ内容を深め、まとめていく。授業を通じて現代社会の複雑化・多様化している人間関係の本質・課題・応用を学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.人間関係とは何か．1	人類の誕生から学ぶ
2.人間関係とは何か　2	歴史から学ぶ
3.関わる力とは何か	チンパンジーの子育てから学ぶ
4.関わる力を育てる意味	人間が生きることと関わって考察
5.年齢別人間関係力の育ちー1	乳児期
6.年齢別人間関係力の育ちー2	幼児期
7.特別なニーズを持つ子ども達―1	障害を持つ子どものニーズ
8.特別なニーズを持つ子ども達－2	虐待される子ども達のニーズ
9.人間関係と想像性	想像性の発達
10.大人の人間関係―1	親子の人間関係
11.大人の人間関係―2	保育者の人間関係
12.大人の人間関係―3	父母・保育者・地域の人間関係
13.施設見学	
14.施設見学	
15.まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは、使用しない。毎回プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

保育内容・人間関係　　金田利子・齋藤政子編著　同文書院

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	50	30	10	10	
人間関係の本質的理解、発達の理解	○	○		○	
特別なニーズの理解、問題整理力	○	○		○	
応用力、保育実践力	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・日頃、新聞・ﾃﾚﾋﾞなどを通して現在に生きる『子ども達の姿』を捉え、まとめ、発表をする。
・次回授業のプリントを読み要旨をまとめ、自分なりに考察をして意見をまとめたプリントを作成し、当日の授業前に提出する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回授業後、小レポート提出

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
保育内容研究（環境）		**2**	**保**	**1･2**	**遠藤知里**

Ⅰ　主題

本授業では、領域「環境」の観点から、子どもが自ら周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を育む保育のあり方を研究する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.プロジェクトを通して、自らの好奇心や探求心を賦活し感性を開く。
2.子どもの「環境とかかわる力」について、事例の討議を通して考察を深める。
3.体験に基づいて、領域「環境」のねらいと内容を実践的に理解する。

Ⅲ　授業の概要

ディスカッションとプロジェクトとを通して、「環境とかかわる力」についての理解を深める。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 領域「環境」について	ねらいと内容
2.「環境とかかわる力」の発達(1)	発達の見方・とらえ方
3.「環境とかかわる力」の発達(2)	生活のなかで
4.「環境とかかわる力」の発達(3)	あそびのなかで
5.「環境とかかわる力」の発達(4)	人との関係のなかで
6.「環境とかかわる力」の発達(5)	保育環境のなかで
7.「環境とかかわる力」の理解(1)	身近な自然や生き物とのかかわり
8.「環境とかかわる力」の理解(2)	身近な物とのかかわり
9.「環境とかかわる力」の理解(3)	文字、記号、数量、形とのかかわり
10.「環境とかかわる力」の理解(4)	地域文化とのかかわり
11.領域「環境」と保育方法(1)	指導計画　環境構成
12.領域「環境」と保育方法(2)	保育者の役割
13.プロジェクト	実践を伴う自主研究
14.プロジェクト	実践を伴う自主研究
15.プロジェクト	実践を伴う自主研究

Ⅴ　使用テキスト・教材等

教科書は使用しない。

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて資料を配付。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	プロジェクトの実践	授業態度	その他(貢献度)
配点比率(%)　合計 100		15	15	50	20
自らの好奇心・探求心の賦活			○	○	○
「環境とかかわる力」の考察の深化		○		○	○
領域「環境」のねらいと内容の理解		○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業内で指定する参考文献を読み理解を深めること
（学外・学内における自主研究を奨励する）

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

長期休業中または週末等にまとめて実施することがあるので、その際は各人の予定の調整を求めます。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（ことば）		**2**	**保**	**1**	**小野田貴夫**

Ⅰ　主題
自己表現、コミュニケーション、想像力の喚起といった側面について、言葉の発達及び習得の観点から、如何に充実させていくか考察する。

Ⅱ　授業の到達目標
1.言葉による自己表現を促す方法を提示できる
2.楽しいコミュニケーションが可能となる条件を設定できる
3.言葉を主とする遊び方・楽しみ方の実施計画が立てられる

Ⅲ　授業の概要
言葉の発達に応じた保育環境について計画・調整できるようになるための知識を、様々な場面や操作対象を取り上げながら、グループワークを通じて身につけていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 乳幼児期のコミュニケーション様式	母子関係、愛着、共同注視について
2. 言語発達の過程と対人関係	言葉の発達と家族・社会関係の変容
3. 言語発達の土台作り	保育者の関わり・コミュニケーション環境
4. イメージの生成と言葉	言葉によるイメージ生成の仕組み
5. 言葉と遊び	言葉で「楽しみ」を生み出す場面・方法
6. 絵本と言葉	絵、言葉、歌による絵本コミュニケーション
7. 歌と言葉	歌の中の言葉・歌によるコミュニケーション
8. 映像・絵画と言葉	絵画表現の発達と言葉の関係
9. 文字の習得	文字に対する意識の変化
10. 言語発達の個人差	自己表出志向と指示表出志向
11. 言語発達と性差	性差による言語表現の傾向の差異
12. 心身の障害と言葉	障害に応じたコミュニケーション
13. 聴覚障害・視覚障害と言葉	手話・点字について
14. 発達障害と言葉	共同注意と言語習得について
15. まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等
資料を配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60		30	10	
自己表現を促す方法を提示できる	○			○	
コミュニケーション条件を設定できる	○			○	
遊び方の実施計画が立てられる	○		○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
グループワーク等では、積極的に参加し、発言すること。私語は慎むこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
保育内容研究（音楽表現）		〔2〕	**保**	**2**	**難波麻美**

Ⅰ　主題

この授業では、幼児の音楽表現活動を広げていく為に必要な知識と技術の習得を目指す。

Ⅱ　授業の到達目標

1.保育者に必要な音楽の基礎知識と基礎技能を習得し、現場で応用できるようにする。
2.幼児の音楽表現活動の援助の仕方、指導法や留意点を、実践しながら考察する。
3.保育者自身の音楽的能力や表現力を向上させ、音楽的感性を磨く。

Ⅲ　授業の概要

授業は、2年次後期の半期で行う。現場に向けての直前対策として、講義やグループによる演習形式で行う。発表の機会多い。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.「音楽表現」とは	感性と表現に関する領域と私
2. 幼児音楽教育の世界	世界共通のうた
3. 保育者の音楽的基礎知識の確認	楽典、歌唱力、ソルフェージュ力
4. 保育者の音楽的基礎技能、技術の確認	ピアノ到達度
5. 日常の音楽教育活動①歌唱力	姿勢・呼吸・発声を学び表現
6. 日常の音楽教育活動②伴奏法	幼児の歌唱、合奏における効果的伴奏
7. 日常の音楽教育活動③作曲法	創作描き歌
8. 伝統的な音楽遊びと活動①歌唱法	伝承遊び、わらべ歌の意義
9. 伝統的な音楽遊びと活動②伴奏法	日本のリズム、音階
10.伝統的な音楽遊びと活動③編曲法	現場で必要な編曲の知識
11.楽器奏法①	楽器の種類と奏法の工夫、指導法
12.楽器奏法②	アンサンブルの楽しさ、個人の技量を知る
13.創作音楽劇①	テーマをもとに台本、音作り
14.創作音楽劇②	発表と討議
15.授業まとめ	
定期試験	筆記試験、課題提出、音楽表現で行う

Ⅴ　使用テキスト・教材等

幼児のうた　130 選　　繁下和雄編　　全国社会福祉協議会

Ⅵ　参考書・参考資料

実践しながら学ぶ子供の音楽表現	石井玲子:編著	保育出版社
授業のための日本の音楽・世界の音楽	島崎篤子・加藤冨美子著	音楽之友社
子どものための音楽	オルフ他	ショットミュージック

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	提出課題	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	20	30		
音楽の基礎知識と基礎技能の習得	○	○			
幼児の音楽表現活動の考察			○		
技術の応用	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で学んだことを、実生活の中で意識的に実践してほしい。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

グループでの演習が多いため、欠席する場合はできるだけ早めに伝えるようにすること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（造形表現）		**〔2〕**	**保**	**2**	**小倉隆**

Ⅰ　主題
子どもの造形活動・表現の援助のあり方を、演習を通して視野を広げ考察する。

Ⅱ　授業の到達目標
1.造形要素を主題にした造形あそびを理解できるようになる。
2.造形要素を主題にした造形あそびに興味を持ち、積極的に活動に取り組み考察することができるようになる。
3.造形要素を主題にした表現ができるようになる。

Ⅲ　授業の概要
「点」「線」「形」「色」ほかの造形要素を主題とした造形あそびを試し考察することで、造形活動の観点と興味を広げる。それらのまとめとして、造形の要素や子どもへのメッセージを主題にした絵本を考察し創作する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	オリエンテーション	授業の説明
2～11.	造形あそび(1)	「点」「線」「形」「色」の造形あそびを試す
12?14.	造形あそびの活動をまとめる	造形あそびの活動(1)をまとめ考察する
15.	造形あそびのまとめ	造形あそびについて振り返りまとめる
16.	絵本を考察する	造形要素を主題とした絵本を考察する
17～28.	絵本を創作する	造形要素を取り入れた絵本を創作する
29.	創作絵本の紹介と考察する	創作した絵本の紹介と考察を行う
30.	授業のまとめ	授業の振り返りとまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
テキスト:必要な資料は配布する

Ⅵ　参考書・参考資料
参考資料　英語版 Little Blue and Little Yellow/Swimmy ; Leo Lionni　可能であれば各自で購入すること。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他
配点比率(%)　合計 100		30	30	40	
造形あそび・造形要素の関心と理解		○	○	○	
造形あそび・表現の理解造形あそび・表現に積極的に取り組む		○	○	○	
自分なりの表現探求と実践		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
・授業での取り組みをファイルにまとめておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
・授業で関心を持った関連事項に積極的に取り組むこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
保育学方法論		**4**	**保**	**1**	**竹石聖子、鈴木久美子**

Ⅰ　主題
保育研究のための方法論について学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標
1.観察及びエピソード記述を行い、子どもの行為の意味や保育者の思いについて深く考察できる。
2.調査研究の基本的な方法を理解することができる。
3.調査の実施とデータ分析を行い、結果を発表することができる。

Ⅲ　授業の概要
前期は観察法及びエピソード記述、後記は調査票調査を実施する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1～2.　保育研究とはなにか 観察法の意義について	保育者が子どもを見るということ
3～5.　エピソード記述とはなにか	エピソード記述の目的と書き方を学ぶ
9～11.　観察をもとにエピソード記述を行う	各自がエピソード記述を行う
12～14.　エピソード記述の考察	全体で読み合い、討議を行う
15.　エピソード記述集の作成	エピソード記述集を作成する
16.　調査の種類と方法	調査の種類と方法を学ぶ
17.　調査レポートについて	調査レポートの書き方を学ぶ
18.　プレゼンテーションについて	プレゼンテーションの方法について学ぶ
19.　調査の企画	どのような調査を実施するか企画する
20～22.　調査票の作成	調査票を作成する
23～26.　調査の実施とデータ分析	調査を実施し、収集したデータを分析する
27～29.　レポートの作成	調査レポートを作成する
30.　調査結果の報告	情報機器を活用し、調査結果報告会を実施する
定期試験	レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等
子どもの心の育ちをエピソードで描く　　鯨岡峻　　ミネルヴァ書房　　2013

Ⅵ　参考書・参考資料
授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40		60		
エピソード記述についての理解と考察			○		
調査方法についての理解と考察	○		○		
調査票の作成と実施、結果発表	○		○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
前期はエピソード記述を書き集めること。後期は計画に従って、調査票調査を実施すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
論文に直接つながる学習である。授業時間外の学習がきわめて重要になる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育臨床学特論		**2**	**保**	**1**	**岡村由紀子**

Ⅰ　主題

この授業では、現代社会におかれている子どもの状況を多面的につかみ、その課題を明らかにし子どもの発達保障をする為の、理解力・実践力の高い専門性が身につくことを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもを取り巻く状況を歴史的・社会的・文化的に考察する。
2.保育場面における子どもの表れを「自我形成の発達」に視点にあて学ぶ。
3.その上で幼児期から思春期を見通した保育の理論を理解し、実践力を身に付ける

Ⅲ　授業の概要

この授業では、テキストを参考に、テーマを中心に論議を進めていく。
論議を通じて、現在の保育場面における課題や問題を明確化し、理解力・問題整理力を身につけ実践力の高い専門性を身につける。。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.育ってきた時代を振り返る	戦後の歴史を中心にする。
2.子どもの中に見る社会	子どもの表れと社会の動きの比較。
3.あそび文化を通してみる子ども	あそびの歴史を中心にする。
4.あそびの意義	発達の視点から考察する。
5.あそびの構造	保育構造の中で捉える。
6.自我形成の発達と保育	発達とは何かを中心にして学ぶ。
7.自我形成－1	乳児期〔0－2 歳児〕
8.自我形成－2	幼児期〔3－5 歳児〕
9.自律的自己コントロール形成と保育	自己主張期・集団に働きかけ期
10.自律的自己コントロール形成と保育	自己コントロール期
11.気になる子を含む個と集団－1	個と集団の発達の比較
12.気になる子を含む個と集団－2	実践の実際と指導について深める。
13.施設見学	
14.施設見学	
15.「求められる保育」について	発表・討議

Ⅴ　使用テキスト・教材等

4 歳児の自我形成と保育　　岡村由紀子・金田利子共著　　ひとなる書房

Ⅵ　参考書・参考資料

気になる子と言わない保育　　赤木和重・岡村由紀子編著　　ひとなる書房

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	50	20	20	10	
保育現場の課題や問題を理解	○	○			
様々な問題を整理し課題を生み出す		○	○		
応用力、保育実践力	○	○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・日頃、新聞・ﾃﾚﾋﾞなどを通して現在に生きる『子ども達の姿』を捉え、まとめ、発表をする。
・授業の中で出る様々な他者の意見や保育実践の理論がどこにあるのかを授業後、自分なり考え、まとめる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回授業後、小レポート提出

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
臨床心理学特論		**2**	**保**	**1**	**里村澄子**

Ⅰ　主題

この授業では、臨床心理に関する知識を元に心の有り様を理解する方法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.臨床心理の知識を理解し、自分の心の動きが観察できるようにする。
2.関わりながら他者を理解する姿勢を体得し、そのためのコミュニケート能力を高める。
3.心理臨床で培った知見をもとに、保育現場における人の理解・支援に応用できるようにする。

Ⅲ　授業の概要

臨床心理に関する知識を理解するとともに、子どもの観察と同時に背後にある家庭等保育環境を構造的に捉えながら個人を支える心理援助の方法を探る。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.臨床心理学を学ぶ意味について	「床に臨む理解」の仕方について考える
2.心理臨床の課題と研究	関与しながら観察し理解する心理臨床
3.子どもの心の理解について	傾聴とカウンセリング・マインドーA子のケースから考える
4.ロージャズの人間観	成長を支える相互尊重の姿勢と共感的理解
5.発達課題と心理臨床	発達の節目とその時期のつまずき
6.パーソナリテイー	心の発達と育児環境　ー虐待のケースをもとに考える
7.性格と心理臨床	自己覚知を性格分析から考える
8.適応について	心の働きと適応機制
9.不適応をめぐる諸問題	サインとしての問題行動を考える
10.問題行動の捉え方	治療的接近と行動変容への援助ー情緒障害児のケース
11.個人の心理相談と援助について	認知行動療法の理論と解説
12.心理相談の実際	個人面談による心の癒し
13.グループ参加につなげる心理支援	社会参加へのステップとしての試みと人的支援活用
14.家族への支援について	孤立させない家族へのサポート
15.地域で支える	連携への試みと個人情報の取り扱い方
定期試験	テーマに沿ったレポート提出

Ⅴ　使用テキスト・教材等

心とかかわる臨床心理　　川瀬正祐・他　　ナカニシ出版

Ⅵ　参考書・参考資料

カウンセリングを考える　　河合隼雄　　創元社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	集団参加による作成	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60	20	5	15	
臨床心理の理論理解	○	○		○	
心理臨床に向き合う姿勢について	○	○		○	
記述に見る自他観察力	○	○			
自己理解の進展	○	○		○	
自己表現を促す作品制作			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

ニュース等、子どもをめぐる状況に関心をよせる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

積極的な授業参加を旨とする。基本的にレポート提出をもって授業参加とする。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育研究実習	**(4)**		**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

1年間にわたり常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園、とこは幼稚園両園において研究実習を行う。その中で幼児教育専門職としての職務追行能力を養成しつつ、研究的態度をもって保育を行っていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自分なりの視点を持って保育に参加することができる。
2.研究的立場から保育を考える姿勢を持つことができる。
3.実習したことを、考察し、記録にまとめることができる。

Ⅲ　授業の概要

実習に当たっては事前・事後指導を行い、附属園ときめ細かい打ち合わせをしつつ、園の実情に即した形で進めていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
○実習事前指導	※これらを1年の園の保育の流れに合わせた形で進めていく。
○日常の保育場面における実習	実習期間は
○行事への参加における実習	平成 27 年4月～平成 28 年2月（毎週　火曜日）
○研究保育に向けた実習	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特になし

Ⅵ　参考書・参考資料

授業内で必要に応じて指示する。図書館の資料をおおいに活用したい。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(記録等)
配点比率(%)　合計 100%				50	50
目的を持って実習に参加する態度				○	○
保育を省察する態度				○	○
保育の要点を記録する技術				○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分の研究テーマを活かして実習日誌を書くこと。
実習日誌は、期日内に必ず提出すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

各園の先生方と密に連絡してすすめること。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
専門ゼミナール		〔1〕	**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

自らの研究テーマを見つめ、2年次の修了論文作成につなげていくことを目的とする。各自の興味・関心をもとに選択した教員のゼミナールに所属し、個別に指導を仰ぎながら、自分の研究テーマを学び、深めていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自らの研究テーマを持ち、研究に取り組むことができる。
2.研究テーマに沿った書籍、論文等の資料収集と購読ができる。
3.計画を立て、見通しを持って論文作成にあたることができる。

Ⅲ　授業の概要

学生自身の選択、教員の認定により所属ゼミナールを決定した後、各教員と進め方を相談しながら以下のように論文作成に向かう。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目・内　容

① 実習・授業その他の経験の整理から、自分が興味や関心を抱けるテーマを絞っていく
② 仮テーマの決定
③ テーマに関する文献等を読み、関心を絞り込んでいく
④ 論文作成に必要なアンケートや観察等の計画を立てる
※①は全体で行う
②～④は担当教員と相談しながら進めていく。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各教員と相談し、必要なものを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(資料収集)
配点比率(%)　合計 100%			50		50
自らの興味関心を活かしたテーマ設定ができたか			○		○
文献、論文等の資料の収集と購読ができたか			○		○
計画的な研究の遂行ができたか			○		○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各自の計画に沿って自主的に課題に取り組むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

修了論文の作成は、1 年次から始まっている。そのことをしっかり自覚してほしい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育特別研究Ⅰ	〔2〕		**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題
段階的に修了論文作成に向かっていくために、「論文を書くこと」を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標
1.研究とはなにかを理解し、意欲を高めることができる。
2.論文作成に必要な知識を学び、その方法論を理解することができる。
3.さらに、上記を理解することで、具体的な論文作成につなげることができる。

Ⅲ　授業の概要
論文を書くことを最終目的に掲げ、そのプロセスを段階的にたどって学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	修了論文とはなにか	修了論文の位置づけと要件を知る
2.	論文を書くとはどういうことか	論文を書くことの意味、進め方を知る
3.	研究とはなにか	研究の進め方を知る
4～6.	文献研究方法について	文献の集め方、読み方を学ぶ
7～10.	テキストクリティーク①	テキストクリティークのレポート作成
11～13.	テキストクリティーク②	発表
14.	フィールドワークについて①	フィールドワークの方法を学ぶ.
15～18.	フィールドワークについて②	フィールドワークを実施し、成果を発表する
19～20.	テーマのたてかた	テーマのたてかた、深め方を学ぶ
21～22.	調査研究方法について	様々な調査方法を学ぶ
23～24.	論文の書き方	論文の書き進め方を学ぶ
25.	修了論文の書き方	修了論文の具体的な書き進め方を学ぶ
26～29.	研究計画書の作成	研究計画書を作成する
30.	研究テーマの発表	研究テーマを発表する
定期試験		レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等
よくわかる卒論の書き方（第二版）　白井利明ほか　ミネルヴァ書房　2013

Ⅵ　参考書・参考資料
授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	10	40		
研究に対する理解と意欲	○	○	○		
論文作成についての理解	○	○	○		
研究テーマと計画案の設定	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストを事前に読んで、レジュメを作成すること。テーマ毎に与えられた課題に取り組むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
修了論文作成は、1 年次から始まっている。そのことをしっかり自覚してほしい。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
保育特別研究Ⅱ	**〔2〕**		**保**	**2**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

1年次の学びおよび専門ゼミナールで取り組んできた成果を活かし、修了論文を作成する。教員と相談しながら研究方法を決め、文献収集を行い、データを分析し、論文にまとめあげることを到達目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自分のテーマに沿った研究方法で研究を進める。
2.集めたデータをまとめて分析する。
3.自分の研究した内容について説明ができる。

Ⅲ　授業の概要

それぞれの担当教員と相談しつつ、計画的に自らのテーマに沿って論文を作成する。

Ⅳ　授業計画と内容

テーマ	教　員
保育学・教育学関係	前浦律子　竹石聖子　加藤寿子
心　理　学　関　係	大村壮　金子泰之
社会福祉関係	鈴木久美子
表　現　関　係	小倉隆
運動・健康関係	鈴木雅裕　遠藤知里

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して、担当教員と相談して選定する。

Ⅵ　参考書・参考資料

各自のテーマに即して、担当教員と相談して選定する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			100		
自己課題を明確に表現した論文作成			○		
データ収集の方法の妥当性			○		
プレゼンでの表現の仕方			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分の研究計画に従って、自主的に進めていく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

途中経過をきちんと担当教員に報告すること。
※評価に関する補足：担当教員の論文審査に加え、修了論文発表会の様子等も加味して綜合的に評価する。